

【令和8年熊本地震】航空防災協議会が宇城市・氷川町へ緊急現地支援を実施

～宇城市・氷川町からの支援要請を受け支援水・支援物資等の搬送・上空視察を民間ヘリコプターで実施～



【令和8年熊本地震】航空防災協議会が宇城市・氷川町へ緊急現地支援を実施

～宇城市・氷川町からの支援要請を受け
支援水・支援物資等の搬送・上空視察を民間ヘリコプターで実施～



このたびの「令和8年熊本地震」により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

令和8年7月28日に発生した「令和8年熊本地震」を受け、航空防災協議会（会長：田中幹夫 南砺市長）は、被災自治体である宇城市および氷川町と連携し緊急現地支援に入りました。

当協議会事務局である「一般財団法人 国際災害対策支援機構」が宇城市・氷川町からの支援要請を受け現地に入り、宇城市・氷川町と密接に連携しながらヘリコプターを活用した物資空輸・宇城市長、氷川町長による被災状況の上空視察支援を展開いたしました。

1. 航空防災協議会による現地支援内容

① 交通渋滞を回避した水の緊急ヘリ空輸（8月1日～2日）

- 道路渋滞対策と迅速輸送：土日に発生した道路渋滞の影響を受けないよう航空機（ヘリコプター）を活用。熊本県天草市と阿蘇市で手配・調達した飲料水ペットボトル（2L×6本入り）約1.78トン、支援物資等を、宇城市および氷川町へ空輸・搬入いたしました。
- 最優先ニーズの充足：猛暑が続く中、現場で最も強く望まれている給水支援に迅速に対応しました。



② 子どもたちへ「おやつ・ジュース」等の重点物資支援

- 避難所からのリクエストによる物資の提供：一般的な公的支援物資の枠組みから漏れがちな、避難所の子どもたちに向けた「お菓子」や「ジュース」を重点的に送付。避難所の子どもたちのリクエストに柔軟に対応いたしました。

【現地保護者からの声】

「地震以来不安な毎日が続いていましたが、子どもたちが久しぶりに笑ってくれました」

「子どもたちの笑顔が親にとっても一番の救いです」

といった感動と感謝の声が寄せられました。



